



Japan Society of Internship  
and Work Integrated Learning

# 日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

## 2015年度 NO.2

### 目次

- ・ 第17回大会（於：目白大学）準備状況報告
- ・ 理事会報告
- ・ 年報編集委員会報告
- ・ 広報委員会報告
- ・ 企画研究WG報告
- ・ 楨本記念賞WG報告
- ・ 本部支部連絡会報告
- ・ 支部活動報告
- ・ 2016年度高良記念研究助成募集について
- ・ 追悼：那須幸雄先生を偲んで
- ・ 平成28年熊本地震被害へのお見舞いのご連絡
- ・ 事務局からのお知らせ
- ・ 会員情報

### 第17回大会準備状況報告

2016年9月3日（土）・4日（日）の2日間、日本インターンシップ学会第17回大会を目白大学・目白大学短期大学部新宿キャンパスにて開催いたします。

今大会のテーマは、「インターンシップの多様化とその可能性」です。1997年に当時の文部省・労働省・通商産業省がまとめた「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」が2014年に大きく見直され、大学にとっての実施意義のみならず、産業界から見ると「社会人基礎力」「基礎的・汎用的能力」の向上、また特に人材不足に悩む中小企業にとっては学生の理解を深める機会としてもインターンシップは有意義な取り組みであることが明確に示されました。

一方で、今日のインターンシップの状況を見ると、本来のインターンシップの目的とかけ離れているものも多く見受けられるようになってきました。そこで、本大会では、多様な形態のインターンシップが立ち現れつつある現在、産・官・学・金の実際の担当者を交えて、「社会連携」という視点から、インターンシップ・人材育成の今後について改めて考える機会になればと思っております。

プログラムは、4年ぶりの東京開催ですので、首都圏で行われている取り組みの最新の状況を共有できる内容としました。初日の基調講演では、東京都オリンピック・パラリンピック準備局より、東京都で行っている都市ボランティア育成の試みや関係自治体との連携方策等についてお話いただき、今後の人材育成のあり方を幅広く考える契機としていきます。その後のシンポジウムでは、「社会連携としてのインターンシップと人材育成」と題し、多様化しているインターンシップの現状を共有し、今後の発展可能性について考えます。インターンシップに積極的に取り組んでいる企業・団体の担当者をお迎えし、現在の取り組みや課題、今後の可能性についてご報告いただいた後、大学等との包括連携協定を進めている金融機関、首都圏の大学が連携して産業界との

連携を進めている取組みの中心である大学教員も交えて議論を深めていくことを予定しています。さらに、その後の特別講演では、経済産業省担当者より、産学官が立場を超えて協働する連携組織の各地の状況や今後の方向性に関して、最新の調査結果をご報告いただくことを予定しています。

2日目は、恒例の高良記念研究助成発表を行った後、会員による自由研究発表を行います。

なお、現在、研究発表の申し込みを受け付けております。詳細は大会ウェブサイトをご覧ください。また、7月初旬より大会参加申し込みも開始いたしますので、詳細はウェブサイト及び大会開催要項（6月末頃に発送予定）でご確認をお願いいたします。

[大会ウェブサイト] <http://jsi2016.mejirom.net/>



最後になりますが、お楽しみ企画として、懇親会にて、本学短期大学部製菓学科と企業が産学連携を行い、実際に商品化されたスイーツの提供などの準備も進めております。懇親会にもぜひご参加いただければ幸いです。

ご参加いただいた皆様にご満足頂けるような大会にしたいとスタッフ一同努力してまいります。大会実行委員をあげて多くの皆様のお越しを心よりお待ちしております。

（第17回大会実行委員長 牛山 佳菜代・目白大学）

## 理事会報告

2015年度 第3回理事会 (2015年12月5日：於：九州大学 箱崎キャンパス)

### (1) 入退会申請について

入退会の申請者について、入会2名について承認された。

(2) 各委員会、ワーキンググループの構成について  
吉本会長より、各委員会とワーキンググループのメンバー構成について報告がなされた。

### (3) 第17回大会開催について

牛山大会実行委員長より、第17回大会開催に関する進行状況と概要が説明された。テーマとして「インターンシップの多様化とその可能性」として、準備を行っていること。基本計画として大会日程として、2016年9月3日(土)～4日(日)に目白大学で開催することの報告があった。

### (4) 会員管理の一部業務委託について

岡本事務局長より、事務処理の一部を(株)ガリレオに委託することが提案された。委託内容としては、会員管理と入退会の管理等を中心に検討中である。会員管理については、会員がホームページを通して各自で会員情報の訂正を行うことができるようになり、会費納入案内も委託することが、事務局より提案され、承認された。

2015年度 第4回理事会 (2016年3月27日：於：九州大学 東京オフィス)

### (1) 入退会申請について

入退会の申請者について、個人会員3名、学生会員1名、法人会員1団体の入会と退会2名が承認された。

### (2) 第17回全国大会について

牛山大会実行委員長より、大会開催準備の進捗状況について報告があった。大会プログラム(案)、研究発表募集要項等の説明があり、研究発表の申込み締切を2016年6月18日(金)必着とすることが報告された。また、研究発表や参加申込みは大会ウェブサイトを開設することが提案された。

### (3) 高良記念研究助成について

岡本事務局長より、2016年度の高良記念研究助成委員会のメンバー交代について報告がなされた。資料に基づき「2016年度高良記念研究助成」の募集に関する提案がなされた。応募の締切は2016年6月10日(当時消印有効)とし、早急に会員へ応募関係書類の発送を行うこととなった。委員長の選出については、後日選出されることが報告された。

### (4) 年報編集委員会報告

亀野年報編集委員長より、「インターンシップ研究年報」第19号の編集・発刊スケジュール予定の報告がなされた。

### (5) 企画研究WG

安孫子企画研究WG委員長より、「学術研究・論文作成セミナー」の開催について、講師には本会理事等に依頼を希望していること、日程は、2016年8月10日(水)13:30～16:30を予定している旨が、

報告された。また、できれば年内に九州支部においても同セミナーの開催を検討中であることも報告された。

### (6) 榎本記念賞 WG

吉本会長より、榎本記念賞選考の在り方について、表彰時期を2年に1回にすることをはじめ、評価方法、評価基準、選定スケジュール等の提案がなされた。

それを受け、岡本事務局長から変更点について説明があり、新しい運用方法については、後日学会ウェブサイトに掲載することが確認された。次回の表彰時期は、2017年度に開催される第18回学会大会時に、同年6月開催の理事会時において、各支部から秀逸なインターンシップ事例の推薦を依頼する旨が検討された。(詳細は「榎本記念賞WG」を参照)

### (7) 会員管理の一部業務委託について

岡本事務局長より、前回の理事会で承認された会員管理の一部業務委託について、(株)ガリレオとの契約完了が報告された。現在、会員データの移行中であり、今後会員管理システムが稼働することになれば会員の登録及び請求は(株)ガリレオから行われることになることが報告された。

(事務局)

## 年報編集委員会報告

年報第19号発行に向けて

年報編集委員会では、年報編集委員、査読をお願いした会員諸氏、第16回大会実行委員会の協力を得て、現在、年報第19号の編集作業を進めております。

本年1月20日を締切として第19号への投稿を募集しましたが、期日までに研究論文(論文及び研究ノート)として、論文3編、研究ノート1編の計4編の意欲的な投稿が寄せられました。

その後、各投稿論文に対して、編集委員及び編集委員以外の会員(各投稿論文につき3名)に査読をお願いし、それをもとに2016年3月28日に第1回の編集委員会を開催いたしました。

今後は、2016年6月5日に第2回編集委員会を開催し、投稿者の修正原稿を審査し、掲載の可否を決定いたします。また、資料の部についても掲載するものを決定する予定です。

その後、最終原稿の提出、印刷・製本を経て、本年11月頃に第19号を会員の皆さまにお届けできるよう作業を進めてまいります。

(年報編集委員会委員長 亀野 淳・北海道大学)

## 広報委員会報告

メルマガ配信用のアドレス登録のお願い

インターンシップに関連する研究会やイベント情報、公募情報などにつきましては学会ウェブサイトに掲載するほか、メルマガにて配信しております。メルマガ配信を希望される方は配信先アドレスをご

登録ください。

また、メルマガ以外にも、学会からの各種連絡および募集等にメールを活用いたしますので、できるだけメールアドレスをご登録くださいますようお願いいたします。

なお、配信先アドレスに変更がございましたら送信先アドレスを、広報委員会 (jsi.prc@gmail.com) までご連絡ください。

(広報委員会委員長 和田 佳子・札幌大谷大学)

## 企画研究 WG 報告

### 学術研究・論文作成セミナー開催について

当 WG では、年報編集委員会と関西支部との共催により、2016 年 8 月 10 日 (水) 13:30~16:30 に、「キャンパスプラザ京都」(JR 京都駅から徒歩 5 分程度) 6 階第 1 講義室で、セミナー「実践を学術研究・論文作成に結びつけるために」を開催します。この日の夕方に、関西支部が同じ場所で支部研究会を開催するのに先立って、標記セミナーを開催するものです。

このセミナーは、東京(2012年12月)や札幌(2014年12月)で開催された同様のセミナーの第3弾という位置づけになります。年報編集委員会や当 WG からの講師と出席者との間で、ワークショップ形式による忌憚のない意見交換を図りたいと考えています。関西地区のみならず、広く中部地区や中四国地区の会員のご参加も大いに歓迎します。

また、九州支部や年報編集委員会のご協力を得て、セミナー第4弾を九州地区で開催することも検討しています。決まりましたところで、お知らせ致します。

(企画研究 WG 委員長 安孫子 勇一・近畿大学)

## 楨本記念賞 WG 報告

### 「楨本記念賞」選定・運用方法の見直しについて

2015 年 9 月に開催された第 16 回大会時の総会にてはじめての楨本記念賞が選定されました。その後、WG ではルールや運用の見直しを議論して参りました。表彰時期を 2 年に 1 回にしたことをはじめ、評価方法、評価基準、選定スケジュール等、変更点を 2015 年 3 月理事会にて報告させていただきました。

新しい運用方法について後日学会ウェブサイトに掲示させていただきます。次回は 2017 年度に開催される第 18 回学会大会時での表彰となり、同年 6 月開催の理事会時には各支部から秀逸なインターンシップ事例を推薦いただく予定です。

(楨本記念賞 WG 委員長 眞鍋 和博・北九州市立大学)

## 本部支部連絡会報告

2015 年度より、各支部研究会等の開催時期・日時

の把握と各支部への連絡調整・情報共有を目的として、本支部連絡会が発足いたしました。支部での研究会情報を各支部長へ連絡し、調整を行う予定となっています。発足したばかりで、まだうまく運用できていませんが、今後、円滑な運用に努めてまいります。

(本部支部連絡会委員長 岡本 信弘・博多工業高等学校)

## 支部活動報告

### 【北海道支部】

2016 年 3 月 17 日 (木)、2015 年度北海道支部総会、ならびに第 1 回研究会を札幌国際大学経済センターキャンパスにて開催いたしました。年度末の繁忙期の開催となりましたが、9 名の方(うち非学会員 1 名)にご参加いただきました。支部総会では、2014 年度の活動報告および決算が承認されたほか、前年度に承認されていた 2015 年度の活動計画および予算についての中間報告を行い、次期 2016 年度の活動方針および予算も合わせて承認されました。

また、2016 年度からの 2 か年における役員の改選が行われ、北海道支部長には現支部長である亀野 淳会員(北海道大学)が再任されたほか、副支部長として椿明美会員(札幌国際大学短期大学部)、和田佳子会員(札幌大谷大学)が再任され、ほか 8 名の会員が支部役員として選任されました。

引き続き行われた支部研究会では、会員 2 名による研究発表がありました。発表者とタイトルは以下の通りです。

- ① 「高校普通科におけるキャリア教育のコーディネーターの有用性についての実践研究—進路多様校での効果的なキャリア教育の実践的検証」  
森 順子 会員(北海道大学大学院教育学院修士課程、株式会社ハッピーアロー)
- ② 「短期大学におけるインターンシップについて」  
齋藤 麻美世 会員(北海道武蔵女子短期大学)

森会員の発表は、インターンシップを含めたキャリア教育の充実を図るために、高等学校と連携するキャリア教育コーディネーターに注目した研究です。キャリア教育の質的、量的拡充を図るためには橋渡し役のコーディネーターが重要になりますが、その効果を実証的に分析した研究で、高等教育機関においても参考になるものと考えられます。また、齋藤会員は短期大学を対象としてインターンシップの調査準備について発表されました。短期大学は職業教育を手厚くしていますが、インターンシップがカリキュラムとどのように関わるか、本質的な研究はまだ少ないのが現状です。短期大学の存在意義とあわせてどのように研究を広げるのか、フロアとの活発な議論が行われました。

北海道支部では 2016 年 5 月 29 日 (日) に 2015 年度第 2 回研究会を開催する予定です。今回は社会に広まりつつあるインターンシップを背景として、

受け入れる企業・団体が抱える課題、加えてインターンシップに寄せる期待について、教育機関と企業の双方から検証することを目的にシンポジウム形式での議論を行う予定です。

(北海道支部広報担当 小林 純・札幌国際大学短期大学部)

### 【関東支部】

#### 関東支部 2015 年度第 2 回研究会を開催

関東支部では、北は東北地方、西は中部地方まで、幅広い地域の会員の皆様からのご支援とご協力により活発な支部会活動が展開されている現状をふまえ、2015 年度第 2 回研究会を、2016 年 3 月 26 日、大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーションにて開催致しました。研究会では、高瀬和実氏(岩手県立大学)による「東北の結びで繋ぐふるさとインターンシップ拡充」と題した基調講演、松坂 暢浩会員(山形大学)をコーディネーター、高瀬 和実氏に加え、佐藤 啓氏(受け入れ企業・株式会社サニックス代表取締役社長)、田中 信吾さん(インターンシップ参加学生・山形大学人文学部)をパネリストとする「地方大学のインターンシップの可能性と課題」をテーマとしたシンポジウム、栗野武文会員(山形大学)と高澤陽二郎会員(新潟大学)による「地方大学における中長期型インターンシップの取組み」をテーマとした自由研究発表がおこなわれました。これらはいずれも「地方」をキーワードとするものであり、フロアとの活発な議論を通じて、首都圏とは異なる地方におけるインターンシップの現状と課題を明らかにすることができました。

今回の研究会には、東北地区の多くの非会員の皆さまにもご出席いただくことができ、今後の活動に向けた多くの示唆を得ることができました。関東支部では、引き続き、これまで首都圏中心でおこなってきた研究会活動の輪を地方へと拡大することによって、研究活動の奥行きを深め、インターンシップの更なる充実と実質化に努めて参りたいと思います。どうぞより一層のお力添えをお願い致します。

#### 第 17 回全国大会の開催に向けて

目白大学・目白大学短期大学部新宿キャンパスを会場に本年 9 月 3 日、4 日の 2 日間にわたって開催される全国大会の開催に向けて、関東支部では、準備・協力の体制づくりを進めるため、5 月 21 日に臨時役員会を予定しております。第 17 回全国大会が実り多き大会となるよう関東支部も全力でサポートをして参ります。

#### 那須幸雄先生追悼

関東支部副支部長 那須幸雄先生(文教大学)が、2016 年 3 月 8 日、ご逝去なさいました。那須先生は、関東支部の設立と発展に多大な貢献をしてくださいました。ここに慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

(関東支部長 折戸 晴雄・玉川大学/関東支部事務局長 根木 良友・玉川大学)

### 【関西支部】

関西支部は、2016 年 3 月 16 日(水)に大学コンソーシアム大阪にて、支部運営委員会を開催しました。まず、昨年 9 月 12~13 日に近畿大学で開催された第 16 回大会について、開催校から支部への謝辞と会計等の報告がありました。

また、会員の皆様がインターンシップや産学連携による実践的教育プログラムの成果を学術研究や論文に結びつけるための手法やスキルを身につけていただくため、企画研究 WG と年報編集委員会との共催のかたちで、2016 年 8 月 10 日(水、「山の日」の前日) 13:30~16:30 に、「キャンパスプラザ京都」(JR 京都駅から徒歩 5 分程度) 6 階第 1 講義室で、セミナー「実践を学術研究・論文作成に結びつけるために」を開催することも決定しました。

これは、東京(2012 年 12 月)や札幌(2014 年 12 月)で開催されたセミナーを関西支部でも開催するものです。関西および西日本に在住の会員を中心に、大学の教員や研究者だけではなく、大学職員や企業・組織関係者の皆様にも参考になる有意義なセミナーにしたいと考えています。講師として、年報編集委員長の亀野淳会員(北海道大学)と企画研究 WG 副委員長の古田克利会員(関西外国語大学)などを予定し、出席者との間で忌憚のない質疑応答をしたいと考えています。

また、当日の夕方、同じ会場で 17 時半頃~20 時に、関西支部研究会(第 11 回)を開催します。関西支部では、ここ数年、さまざまなテーマで研究会を開催してまいりましたが、今回は関西および東海地区における秀逸なインターンシップを紹介するため、大阪経済大学のインターンシッププログラム(年間 480 人、3 年生の 1/4 以上をインターンシップに送り出し)の実践内容について中島美佐穂会員が報告するほか、豊橋創造大学の見目喜重会員が東海地区での中小企業のニーズ等に関するヒアリング結果などについて発表する予定です。

会員の皆様、お忙しい中、また京都の夏は暑さが厳しい時期ではありますが、関西支部といたしましては、一人でも多くの皆様にご参加いただければ幸いです。

(関西支部長 安孫子 勇一・近畿大学/副支部長 廣瀬 幸弘・立命館大学)

### 【九州支部】

2015 年 12 月 4 日に「地域活性」をテーマに福岡工業大学において九州支部第 15 回研究会を「九州インターンシップ推進協議会設立 15 周年記念事業」の一分科会として共催しました。

最初に古賀正博会員より「地域活性化につながる戦略的インターンシップ」について、経済団体の立

場からの取組みについて二つの取組み事例が報告されました。一つ目の取組みは PBL 型の「キャリアスクーププロジェクト」という地域企業の若手社会人が学生のメンターとなり、地元中小企業にインタビュー(取材)を行い、記事や HP で取材結果を発信するプロジェクトでした。二つ目の「福岡魅力発見インターン」は、関東関西から福岡へ UIJ ターンのインターンシップであり、地域の魅力を他地域の若者が見出し発信するだけでなく、社長宅に宿泊し、密度の濃い 10 日間を体験するインターンシップです。この 2 つのプロジェクトの共通点は、受け入れ側が本気で何かを能動的に実施することで、学生たちが大きな化学反応を起こす成果につながるということです。

次に、眞鍋和博会員から「震災復興の現場で社会的課題に取り組む長期インターンシップ【東北】～北九州市立大学地域創生学群「チャレンジプログラム」～」についての報告がなされました。北九州市立大学では、約 50 プロジェクト、1000 名の学生が PBL やサービスマーケティングを行っています。そのプロジェクトの一つとして、「東日本大震災関連」にも取り組んでいます。「チャレンジプログラム」として長期のインターンシップを行っている学生についての報告が中心でしたが、多くのプロジェクトを同時並行的に、ルーティン的なものとプロジェクトを一緒に活動させることで、教育効果につながっていくことが報告されました。自ら主体的に取り組むスキーム作りが全体で上手く機能していること、地域課題解決の枠組み自体を新たに創出できる人材育成につながっていることが、実習・演習の地方創生人材育成のカギとなっていることが紹介されました。

最後に、吉本圭一会員から総括として、古賀報告は地域が担っていたタテ、ヨコ、ナナメの機能をインターンシップで復活させようとする取組みであったこと、眞鍋報告は日本版デュアルシステムと呼べるような取組みを学部全体で実施していることなどチャレンジングなタスクに地域や大学が取り組むことの重要性が指摘されました。

研究会には 53 名、「九州インターンシップ推進協議会設立 15 周年記念事業」全体では 200 名を超える参加者があり、報告者の熱いメッセージにフロアからも活発な質問が多く寄せられ、盛会のうちに研究会を終えることができました。

第 16 回研究会は、『就職時期変更によるインターンシップと就職活動への影響』というテーマで、2016 年 6 月 4 日(土)14:00～15:30 に九州大学箱崎キャンパス部学部会議室において開催いたします。(詳しくは学会ウェブサイトをご覧ください。)

(九州支部広報担当 江藤智佐子・久留米大学)

## 2016 年度(第 9 回)高良記念研究助成募集について

「高良記念研究助成」制度は、高良和武名誉会長から学会へご寄付いただいた基金をもとに、2007 年度よりインターンシップに係る研究・実践活動の

発展・普及のため、特に若手研究者の育成や会員相互の研究交流の促進を図ることを目的として、優れた研究課題へ研究助成を行うものです。

この度、2016 年度の研究助成の募集を行いますので、会員の皆様には是非ご応募いただきますようお願いいたします。募集要項、申請書式等、申請に係る書類はすでに第 17 回大会のご案内と研究発表募集に同封しております。

申込締切り後、採否を審査、8 月の理事会で決定し、研究助成対象者は大会の総会席上にて発表する予定です。助成期間は 1 年、研究成果は次年度の大会にて発表いただき、さらに研究年報に助成研究として掲載されます。国内外における多様な視点からのインターンシップ研究、その実践活動の展開に関する研究など幅広い研究についての応募をお待ちしております。

※申込締切: 2016 年 6 月 10 日(金) 必着

(高良記念研究助成審査委員長 岡本 信弘・博多工業高等学校)

## 追悼: 那須幸雄先生を偲んで

日本インターンシップ学会の発足以来、その発展に多大の貢献をされた那須幸雄先生(文教大学国際学部観光経営学科教授、本学会理事)が、去る 2016 年 3 月 8 日ご逝去されました。謹んで哀悼の誠を捧げ、ご冥福をお祈りいたします。

那須先生はこの 3 月に文教大学を定年退職される矢先で、研究室の整理整頓、ゼミの総合発表会の準備などで超ご多忙であったことは、メールを通じて承知をしていましたが、3 月 26 日の学会(山形)でお会いすることになっていたことでもあり、突然の訃報は全く信じられません。何事も寝食を忘れ緻密に取り組まれるご自身の性格から、無理をされて体調を壊されたのではないかと拝察しています。

思い起こせば、先生とは学会創立準備総会の当時からのお付き合いで、設立の趣意書、研究会の範囲などと侃々諤々の議論をしたことを昨日のように思い出されます。ご専門の経営学(マーケティング)や経営情報学の知見を活かして人材育成(インターンシップ)や観光学の分野において我々をもっと牽引して欲しかったが、それが叶わず残念でなりません。

合 掌  
(田中 宣秀・電気通信大学)

.....

那須幸雄先生ご経歴:

慶応義塾大学大学院商学研究科商学専攻修了、(株)三菱総合研究所に勤務。日本文理大学教授を経て、文教大学国際学部教授。主要図書は『情報化社会の人間教育』『インターンシップとキャリア』(いずれも共著)。論文多数。

.....

## 平成 28 年熊本地震被害へのお見舞いとご連絡

平成 28 年熊本地震の被害に遭われた被災地の皆様に心からお見舞いを申し上げますとともに、犠牲になられた方々とご遺族の皆様に対し、深くお悔やみを申し上げます。

今なお余震が続いているとのことで、困難な生活を強いられている被災地の方々の健康も案じられます。くれぐれも健康と安全にご留意いただければと存じます。

本学会では、被災されました会員の皆様の年会費等につきまして現在検討中であり、対応が決まり次第ホームページ等によりご案内させていただきますので、宜しくお願い致します。

(会長 吉本 圭一・九州大学)

います。

### 会費納入先

#### 【郵便振替】

口座番号 02750-1-108419

加入者名 日本インターンシップ学会

#### 【ゆうちょ銀行】

店番 279 (当座) 108419

#### 【銀行振込】

福岡銀行 樋井川支店 (普通)300558

受取人名 日本インターンシップ学会

(電信振込の場合は、「ニホンインターンシップガッカイ」と入力下さい。)

(事務局)

## 事務局からのお知らせ

### 会員情報変更および確認の連絡について

4 月以降に新天地で活動を開始された会員も多いことと存じます。学会では 2016 年 6 月より学会運営業務の一部を(株)ガリレオへ外部委託すると共に、会員情報管理システム(SOLTI)を導入することになりました。同封の「会員原簿登録情報」の確認をお願いいたします。システムを通じ、会員原簿登録情報の更新・確認、会費納付状況や会誌発送状況の確認等の手続きがオンラインで可能となります。修正が必要な場合は、今後会員情報管理システム(SOLTI)にログインして修正を行っていただくこととなります。(「会員の皆様への重要なお知らせ」をご覧ください。)

### 会費納入のお願い

本学会は 2011 年度より事業年度及び会計年度が 7 月から翌年 6 月までに変更になっております。ついては、2016 年度会費については、別途納入依頼をお送りさせていただきます。

なお、2015 年度の会費未納の方は、郵便振替用紙かゆうちょ銀行からの振込(ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方は手数料が無料です)で、下記振込先までお送り下さいませようお願いします。今年度まで銀行振込でも受け付けております。振込手数料は各自でご負担願

日本インターンシップ学会 News Letter 2015 No.2

平成 28 年 5 月 30 日発行

発行 日本インターンシップ学会 会長 吉本 圭一

編集 日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 和田 佳子

印刷 日本インターンシップ学会事務局 事務局長 岡本 信弘

〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎 6-19-1 九州大学人間環境学研究院

九州大学第三段階教育研究センター内

E-mail : [jsi-sec@js-internship.jp](mailto:jsi-sec@js-internship.jp) Tel/Fax : 092-642-4365

Website : <http://www.js-internship.jp/>